

## 中央西農業振興センター 農業改良普及課

管内市町村 管内J A	土佐市、いの町 J A高知県仁淀地区土佐市支所 J A高知県仁淀地区伊野支所、吾北支所						
産地の特徴 主な園芸品目	<p>・管内は、仁淀川河口部の海岸部から県境の山間地まで多様な農業が営まれている。温暖な海岸部から中流域までは、施設園芸（野菜、果樹、花卉）やショウガ等の露地野菜、斜面地の土佐文旦をはじめ小夏等中晩柑かんきつ類等、様々な作物が栽培されている。その他、平場地では米等の栽培も盛んである。</p> <p>また、中山間地では柚子や露地ショウガ、夏秋ピーマンや露地ニラの他白芽芋等の栽培がされているほか、直販所向けの農産物が栽培され、農産加工品の製造も行われている。</p> <p>・主な園芸品目としては、施設ピーマン、施設メロン、施設キュウリ、ユリ、ショウガ、青ネギ、土佐文旦、小夏等がある。</p>						
人員配置  平成 28 年度 12 名 平成 29 年度 11 名 平成 30 年度 11 名	<p>令和元年度職員総数 11名（うち実務経験が3年未満の職員1名）</p> <table border="1" data-bbox="475 1111 1337 1352"> <tr> <td colspan="2">農業改良普及課長 1名</td> </tr> <tr> <td>地域営農担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)</td> </tr> <tr> <td>産地育成担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：全域)</td> </tr> </table>	農業改良普及課長 1名		地域営農担当	チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)	産地育成担当	チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：全域)
農業改良普及課長 1名							
地域営農担当	チーフ1名 普及指導員 3名 (担当エリア：全域)						
産地育成担当	チーフ1名 普及指導員 5名 (担当エリア：全域)						
普及活動の 進ちょく管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点プロジェクト課題については、毎月一回チーム会を開催し進捗及び取り組みについて情報交換し管理している。総合課題についても、随時チーム長がチーム員（チーフ、課長含む）を招集し、進捗状況や取り組みの手法、役割分担等を話し進捗を確認している。</li> <li>・毎月実施している職員会では、隔月毎にチーム長から計画に対する進捗状況を報告し、チーム員以外の職員や上司、専技等からのアドバイスを受け、目標達成に向けた取り組みを確認している。</li> <li>・四半期毎に、職場内で普及指導活動の進捗状況、課題、問題点等情報共有すると共に、環境農業推進課に計画に対する進捗状況を報告している。</li> <li>・市町やJ A等の関係機関とは、連絡会や担い手育成協議会幹事会等で方向性の確認を行っている。</li> </ul>						

職員の資質向上  
の取組状況

●職場研修

・基盤整備事業と普及活動との連携

いの町の高台では、ショウガ栽培用の水の確保が課題となっており、現在ポンプでくみ上げた用水を軽四トラックで上まで持って行っている。そこで、かんがい施設整備(ポンプでくみ上げ、パイプラインを設置し各ほ場で取水する仕組み)計画について、現地で研修を行った。施設設置後は、ショウガ栽培の省力化や面積拡大が可能となり、ショウガの生産安定につながることを確認できた。

・集落営農推進手法と法人化支援

集落営農の必要性、集落営農を勧めるための手法、法人化の基本について、具体的に管内の組織活動を交え研修を受けた。

●新任者を対象にしたOJT

(概要を記載)

H30年度、新任者(3年目未満)0名

●国段階研修(平成30年度)

研修名	人数
担い手の経営力向上支援研修	1名

(参考)平成29年度の参加人数 2名(実人数)

●県段階研修(平成30年度)

研修名	人数
自主企画研修	
・土壌還元消毒による土壌病害抑制効果の検証	1名
・農福連携による農業労働力確保の仕組み作り	1名
派遣研修	
・環境制御技術等に関する先進技術習得研修	1名

(参考)平成29年度の参加延べ人数 2名

上記の他に、県内専門技術高度化研修などへ参加

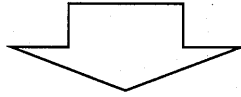
タブレット等  
ICT技術の活  
用状況について

現地で農家からの病害虫の質問に対し、タブレットを活用し写真により具体的に説明できた。

## 外部評価対象課題の普及実績(30年度)及び計画(元年度)の概要

所属名	中央西農業振興センター農業改良普及課																						
課題名	酒米「吟の夢」の生産振興																						
取組期間	平成29～31年度	産業振興計画課題分類	I-④																				
対象	土佐市吟の夢栽培技術研究会																						
ねらい	<p>○平成26年産の主食用米価格の急激な下落により、所得向上につながる酒米への作付けが、再び増加してきている。また、県内の酒造会社からは、県オリジナル品種「吟の夢」のさらなる生産拡大に加え、高品質な安定生産を求められている。</p> <p>○土佐市では、平成30年度より既存生産者3戸に加え、新規生産者4戸が参入し、地元酒造会社からは新規生産者を含む生産量の確保が急がれている。</p> <p>○そこで、「吟の夢」の生産拡大に向け、生産農家、地元酒造会社、市役所及び振興センターが連携し、新規生産者向けに研修会や先進地視察研修等を通じ、基本技術の定着による増産、面積拡大を目的に普及活動を行った。</p>																						
平成30年度の主な実績	<p>○栽培面積の拡大と生産量の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>栽培面積は約5haから約9haに拡大した(生産量は22tから37t(前年比168%)に増加した)。</li> </ul> <p>○新規生産者の基本栽培技術の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修会や現地巡回等を通じ、新規生産者4戸の基本栽培技術が定着した。</li> <li>平成30年度県酒米品評会において新規生産者1戸が入賞した。</li> </ul> <p>○栽培暦の改訂</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実証ほの調査結果から収穫適期が把握でき、栽培暦を改訂し、新規生産者の指針となった。</li> </ul> <p>○研究会の発足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産者7戸、地元酒造会社、市役所および振興センターから構成される「土佐市吟の夢栽培技術研究会」を発足した。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="293 1370 1417 1632"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>現状(H29)</th> <th>目標(H30)</th> <th>実績(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栽培面積の拡大</td> <td>4.9ha</td> <td>10ha</td> <td>9.2ha</td> </tr> <tr> <td>基本栽培技術定着の新規生産者数</td> <td>0戸</td> <td>4戸</td> <td>4戸</td> </tr> <tr> <td>地域版栽培暦の改訂</td> <td>—</td> <td>改訂</td> <td>改訂</td> </tr> <tr> <td>研究会の発足</td> <td>0組織</td> <td>1組織</td> <td>1組織</td> </tr> </tbody> </table>			項目	現状(H29)	目標(H30)	実績(H30)	栽培面積の拡大	4.9ha	10ha	9.2ha	基本栽培技術定着の新規生産者数	0戸	4戸	4戸	地域版栽培暦の改訂	—	改訂	改訂	研究会の発足	0組織	1組織	1組織
項目	現状(H29)	目標(H30)	実績(H30)																				
栽培面積の拡大	4.9ha	10ha	9.2ha																				
基本栽培技術定着の新規生産者数	0戸	4戸	4戸																				
地域版栽培暦の改訂	—	改訂	改訂																				
研究会の発足	0組織	1組織	1組織																				
平成30年度の主要な活動内容と実施時期	<p>○生産拡大に向けた関係機関等の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作付け前に生産農家、地元酒造会社、市役所の関係者で打合せおよび講習会を実施した(4月)。</li> <li>地域版栽培暦を基に栽培方法の聞き取り調査を行い、栽培上の課題とその注意点について確認した(4月)。</li> </ul> <p>○新規生産者の栽培技術の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現地巡回や肥培管理などの栽培講習会を5回開催した(4月、7～9月)。</li> <li>兵庫県加東市で先進地視察研修を実施した(10月)。</li> </ul>																						

	<p>○栽培暦の改訂に向けた実証ほの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫適期の把握を目的に現地実証ほを設置し、生育状況や収量・品質を調査した（4～10月）。</li> </ul> <p>○酒造会社との信頼関係づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産農家と地元酒造会社との信頼関係をつくるため、合同の栽培反省会や酒蔵見学会を実施した（2月）。</li> </ul>
--	--



令和元年度の主な目標	○新たな酒米生産者の増加による栽培面積の拡大		
	○新規生産者（2年目）の収量増に向けた栽培技術の向上		
	○実証ほの調査結果に基づく地域版栽培暦の改訂		
	項目	現状（H30）	目標（R元）
	栽培面積の拡大	9.2ha	12ha
新規生産者（2年目）の平均反収	290kg	420kg	
地域版栽培暦の改訂	—	改訂	

令和元年度の主要な活動内容と実施時期	<p>○田植後の活着状況の確認（ほ場巡回 6月）</p> <p>○栽培管理の周知（穂肥・収穫勉強会 7～8月）</p> <p>○県内外先進地の視察研修（現地検討会、兵庫県 9～10月）</p> <p>○新規生産者確保に向けた説明会（9月）</p> <p>○次作の栽培面積の意向把握（個別巡回 10月）</p> <p>○実証ほの設置および収量・品質調査（実証ほ 6～12月）</p> <p>○今作の栽培結果と品質の評価（栽培反省会 1月）</p> <p>○実証ほの調査結果に基づく地域版栽培指針の改訂（実証ほ 2月）</p>
--------------------	---

所内体制	水稲担当2名
連携推進体制の整備	<p>平成30年度に「土佐市吟の夢栽培技術研究会」を発足し、生産農家7戸、地元酒造会社、市役所、振興センターを構成員として、環境農業推進課の専門技術員と連携しながら、地元酒造会社のニーズに対応した酒米の生産体制を構築することができた。</p>

平成30年度 普及指導活動実績の概要一覧

中央西農業振興センター農業改良普及課

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	実績	達成状況	普及活動のふりかえり	チェック欄
重1 環境制御技術導入による施設園芸産地の強化	5	環境制御技術導入面積率(ピームン)	28.8%	75.0%	33.2%	△	個別指導や研修会を行ったが、高齢化、後継者がいない等により、新たな技術導入が難しかった。	
総1 地域の農業を支える仕組みづくり	5	設立法人数	0	1	1	○	法人化志向組織に対し、法人化セミナー参加を促し、定例会15回開催するなどきめ細かな支援ができた。	
		集落ビジョンフォローアップ組織数	2	3	4	○	既存組織の役員会等でビジョンの必要性を説明し、話し合いの場を持つことで対応ができた。	
		産地提案型取り組み部会数	4	4	4	○	市町、JA等関係機関と連携し部会役員会等で産地提案型が理解され、受入体制が整った。	
総2 担い手確保対策及び女性農業者の育成	5	新規研修希望者数	4	6	6	○	関係機関と連携し、県外就農相談への参加や担い手協幹事会等での受入体制の充実がはかられた。	
個1 IPM定着のための既存技術の改良と新たな技術確立	1	技術改善農家数(キューリ)	—	3	3	○	研修会で改定したIPMマニュアルを活用した説明や個別指導を行い、防除対策が理解された。	
個2 青ネギの生産安定技術の普及	1	学習会等参加人数(延べ)	35人	45人	24人	△	学習会の開催時期等のタイミングが遅れ参加人数が少なくなったが、チラシ配布等によりカバーできた。	
個3 ショウガの生産安定と農業クラスターの推進支援	6	国ガイドライン準拠のGAP手法の普及	試行	実施	実施	○	関係機関とGAP点検手法を検討すると共に、ショウガ部会で勉強会をもち、その必要性が共有出来た。	
個4 ユリ産地の生産安定	1	土壌改良実施農家数	0/2戸	2/2戸	2/2戸	○	関係機関と連携し、個別面談や指導を行うことで理解が深まった。	

個5	ブントンの生産安定と産地力強化	1	出荷量	1,020t	1,055t	990t	△	現地検討会や個別指導を行ったが、夏場の干ばつ等気象変動が激しく、出荷量に影響が出た。
個6	酒米「吟の夢」の生産振興	2	基本技術定着の新規生産者数	0人	4人	4人	○	関係機関、生産者、酒造メーカーが一体となり研修会等を開催し、生産者の意識統一ができた。
個7	6次産業化による地域の活性化	2	新たな商品数	—	1	1	○	6次産業化支援チーム会のきめ細かな対応により、課題、問題点が明らかに商品化がスムーズにできた。
個8	労働力確保対策の推進	5	取り組み先行事例	0	1	2	○	労働力確保対策地域PT会と福祉事務所がお互いの現状を共有し、連携を図ることで農福のマッチングができた。

令和元年度 普及指導活動計画の概要一覧

中央西農業振興センター農業改良普及課

課題名	チーム員 (人)	主な評価指標	現状	目標	普及活動における主な手法	チェック欄
重1 環境制御技術導入による施設園芸産地の強化 (キュウリ、ピーマン、シトウ、メロン)	4	環境制御技術導入面積率 (ピーマン) 環境アワードに基づき栽培管理に取り組む農家数(全品目)	33%	90%	環境制御普及推進協議会1回、勉強会等4回、個別指導、調査ほ2カ所	
総1 地域の農業を支える仕組みづくり	4	集落営農組織数	11戸	14戸	環境制御普及推進協議会1回、勉強会等4回、個別指導、調査ほ2カ所	
総2 担い手確保対策及び女性農業者の育成	5	産地提案型取り組み部会数	4	5	関係機関連絡会12回、設立準備委員会開催6回 地区勉強会5回	
個1 IPM技術を用いた病害虫防除によるキュウリ産地の強化	1	黄化えそ病発病株率10%以上の農家率	25%	15%	関係機関連絡会5回、理事会での学習会1回 理事会での合意形成1回、サポーターチーム4回	
個2 シヨウガの生産安定と農業クラスターの推進支援	5	士佐市シヨウガ部会試行率	52%	100%	担い手協幹事会6回、部会役員聞き取り1回、部会役員会1回	
個3 ユリ産地の生産安定	1	若い後継者の組織化	0	1	担い手協幹事会6回、就農候補地、空きハウス等のアンケート調査実施1回、県内相談会1回	
個4 ブントンの生産安定とユズの省力化	1	秀品率	6%	12%	現地検討会20回、研修会5回、反省会3回、個別指導、グループ実証ほ4カ所	
個5 酒米「吟の夢」の生産振興	1	新規生産者の平均反収	290kg	420kg	関係機関打合せ3回、部会勉強会2回、個別指導実証ほ設置1カ所	
個6 6次産業化による地域の活性化	2	加工品数	1	2	意見交換会3回、調査ほ設置1カ所、個別巡回 研修会4回、地域内放送による広報活動2回、花粉調査 70戸、役員会2回 栽培講習会3回、反省会1回、ほ場巡回、実証ほ1カ所、先進地視察1回	

令和元年度普及活動外部評価会  
普及事業の評価結果及び改善方向に関する助言・提言

中央西農業振興センター農業改良普及課

(○評価会で発言、●評価用紙に記載)

評価項目	評価及び感想・ご意見
普及指導活動の体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>●少ない人員で頑張っていることをほめたい。</li> <li>●職員数が少ないためか、営農・育成担当の割当てが全域では難しいのでは。作物ごとに分けているのか？</li> </ul>
普及指導活動の体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度、新採職員が入って変化は？→活気がでてきた。</li> <li>●新任者育成には職員全員が携わって欲しい</li> </ul>
普及指導活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発表課題は、市場ニーズにマッチしている課題である。</li> </ul>
普及指導活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関係機関との連携</li> <li>○生産者と民間企業が手を組んで取り組むと強い。</li> <li>●他の酒造会社も含めた活動につながればと思う。</li> </ul>
普及指導活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「吟の夢」の取扱量を100%にするのは可能か。→地元の協力もあるので、近づけていく</li> <li>○文旦の生産量は減少しているのか？→作付け面積が減少している。</li> <li>●目標値の算出方法がわかりにくい（普及活動計画や実績において）。</li> </ul>
普及指導活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関係者が一堂に会する場を設定することが、普及の役割としてしっかり意識され活動したことで成果につながっている。</li> <li>●推進の場作りとして栽培技術研究会は良い事例である。</li> <li>●企業誘致とのマッチングがうまくいった事例であり、関係者の設定が良かった。こうした事例を増やしたい。本来JAも入って行くべきだと思う。</li> </ul>
普及指導活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●普及所が中心となり生産者、企業、行政の連携をうまくリードし、結果を出しているところが素晴らしい。</li> <li>●普及指導活動は最も高い取り組みだと思う。</li> </ul>
普及指導活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個別指導、研修会を行ったが環境制御技術導入に至らなかった理由は、高齢化、後継者問題だけか？</li> <li>●目標に対する成果をどう考えるか？満足か。まだまだか。</li> </ul>
普及指導活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農家、民間会社、市、県がとても連携した良い活動である。こうした活動がもっと広く広がって欲しい。</li> </ul>
<b>外部評価、総合所見等</b> ○スマート農業とは？暗黙知をいかに伝えるかも考える。 ●関係機関の中へ入り、会を開くなど大事な仕事をされていること様子がよく伝わってきた。 ●担当者の熱意がよくわかる発表であった。活動が整理されよくできていると思う。 ●プレゼンは普及員の関わりがわかりやすい説明であった。	